



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2017年(平成29年)10月5日号 No.1739

目次

■ 底打ち感が強まるロシア乗用車市場 坂口 泉 1	
—2017年夏時点の状況—	
■ キーパーソン 11	
ロシア沿海地方知事が解任／11	
■ 統計速報 12	
2017年1～8月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／12	
2017年1～8月の日ロ貿易／13	
■ エトセトラ 14	
「カザフスタン・水ビジネス推進キャラバン」のご案内／14	
■ トピックス 15	
荒井商事がロシアでELVリサイクル事業／15	
シスメックスがモンゴル保健省と契約／15	

底打ち感が強まるロシア乗用車市場 —2017年夏時点の状況—

ロシアNIS経済研究所
坂口 泉

はじめに

急激な石油の増産と高い油価水準に支えられ、ロシアの新車販売台数は2000年代半ば頃から右肩上がりの曲線を描き始め、2012年には294万台(小型商用車を含む数字)という過去最高の水準に達したが、2013年からは一転して下降線をたどるようになった。しかも、不振の度合いは年々深刻となり、2016年の販売台数は2012年の半分以下の約143万台にとどまった。しかし、2017年に入り、月間販売台数が前年同月の数字を上回るケースが目立ち始め、1～8月期の販売台数は前年同期比9.6%増の98万921台に達した。

本稿では、回復傾向が見え始めた市場における各メーカーの対応ぶりになどに着目しながら、2017年夏時点のロシア乗用車市場の状況を紹介する。

生産動向

ロシアの乗用車生産台数は2012年に過去最高の197万台という数字を達成した後、販売の低迷と歩調を合わせるような形で減少し、底であった2016年は2012年の数字を86万台下回る112万台にとどまった。ロシアの自動車工場の生産能力の合計値は約300万台／年といわれてい